

「楽しい学校」をつくるために〔第3部その(5)－(通算37)〕

主人公をめざしての1学期を終わるにあたって—平和集会に寄せて—

平和集会では、これまでの各学年の平和への取り組みを発表し合い、平和コンサートでの感動を確かめ合い、そして、平和についての思いを響き合わせました。そのことは、1学期の子どもたちの主人公をめざしての様々な取り組みの成果の集大成でもあったのではないのでしょうか。

2年生から始まりました。『しんちゃんの三輪車』を学習しての2年生の絵がスクリーンに映し出される中、しんちゃんの「もっと遊びたい」という思いをしっかりと受け止めた感想を発表し合い、手話を交えての『世界中の子どもたちが』を歌い上げました。3年生—江種さんの被爆体験のお話、山根さんとしんちゃん（腹話人形）の『しんちゃんの三輪車』のお話、清水さんに読んでいただいた詩と木村さんのお手紙を聞いて、感動的なよびかけを発表しました。「家族をなくすってほんとにつらい」。1年生—『おこりじぞう』の学習をもとに心をこめて一生懸命に平和へのよびかけを発表しました。『あの青い空のように』の歌で「すみきった心になるように」と訴えました。企画委員—『火垂（ほたる）の墓』の構成劇。日常生活の中での戦争の悲しさ・むごさが胸にせまってきました。4年生—江種さんのお話をとってもよく聞き取って、「けがで苦しんでいる人を助けることができなかった」つらさ・悲しみを気持ちこめて発表。そして、平和コンサートでの5・6年生の歌声に感動した経験をもとに「ぼくたち、わたしたちにできること、それは、歌うこと」と誓い合いました。6年生—地域の方々への被爆体験、戦争体験などの聞き取り活動の発表。「真実（まこと）を見抜く力をつけること」「それが平和への第一歩」。地域の方々の一言ひとことに真剣に向き合った発表でした。5年生—シニアコーラスグループとの『世界の命＝広島心』の大熱唱。渡辺さん、湯山さんの指導を受けて、からだ全体で「広島心」を表現したすばらしい歌声でした。全学年での峠三吉の詩『人間をかえせ』の群読。そして、『折鶴のとぶ日』の全員合唱。美鈴の地から世界へ、平和の心を歌声で発信した感動の時空間でした。

8月2日は、8・6を前にした『平和のつどい』（登校日）です。チェロの演奏をバックに、林さんの『しんちゃんの三輪車』の一人語りです。保護者の皆様のご参観をお待ちしています。（堀之内）